



編集後記 はたらく細胞

インフルエンザが大変な猛威をふるっています。

お正月休みで観た映画は、そのことにも関係するものでした。

「笑って泣けてタメになる」と銘打たれた映画「はたらく細胞」。お勧めですよ。(^_-) ☆

当たり前の
ように働いて
くれる細胞に
感謝



僕たちの体を守る、働く細胞たち。煙草の煙が侵入すると仕事の妨げになると大騒ぎ。

体中に酸素を運ぶ赤血球はLDLだらけのデコボコ道で四苦八苦。

不摂生な生活を送る人間の体の中はそんな細胞たちにとっては過酷。「ブラックな職場」と嘆きます。

人間がデートしたりして心から笑うと、細胞も喜んで活性化する。免疫力が上がるってことですね。(^_^)

体の中の細胞たちが体の中で増殖（成長）していく悪い菌やウィルスと闘う場面では、今もガンと闘うお世話になった人の容態が思い起こされ、命をかけて闘う白血球（佐藤健さん）や弱った善玉菌に酸素を届ける赤血球（永野芽衣さん）に感情移入してしまい、「頑張れ、頑張れ」と自然と応援してしまいました。

僕たちの体は、そんな日夜、休みなく働いてくれている細胞たちによって守られています。

これから訪れるスギ花粉の悩ましい季節のクシャミや鼻水も、体の中の細胞たちが頑張ってくれている証と考えたら、辛くても頑張って乗り越えることができそうな気になります。(^-^)



あのおっちゃん
映画見ながら
泣いどるがな



映画に出てくる細胞たちが、表紙の写真のラグビー選手のように、一つの目的のために自分の使命を全うしつつ、連携し互いを助け合おうとする姿にダブる光景がありました。

それは、震災の時に報道で見た、住民たちが互いを励まし助けあう光景。

先頃の阪神淡路大震災30年の報道によると、行政や消防が麻痺している中での人命救助は、公助は2割に過ぎず、近隣住民たちの自助救助が8割だったそうです。家屋に押しつぶされた人を救助したり、給水ホースを握って消火にあたりたり。「共助」というそうですが、30年前の記録映像だとわかって見ても、住民の方の必死な姿にやっぱり「頑張れ、頑張れ」と思ってしまう。

ただ、阪神淡路大震災が起きた1995年は、日本の経済の担い手である生産年齢人口（15歳以上65歳未満の人口）がピークの年。急激に少子高齢化が進んでいる今後は、あのような「共助」は難しいかもしれません。元気で歳を重ねることの大切さを改めて感じます。



政府が今月24日召集の通常国会に提出を予定する年金改革法案の全容が明らかになりました。



主だったところは、社会保険適用の企業規模要件の見直しと、働いて年金が減額されることを減らすために働くシニアの年金カットの基準額を現行の月収50万円から62万円に引き上げる法案（在職老齢年金制度の見直し）です。つまり、元気なシニアの方には年金を減らさないの、できるだけ働いてほしいというものです。

今月、僕の郷里（宮崎県）で震度5弱の地震が起きたところですが、地球も生きていいと言ってもいいのではないのでしょうか。最近の夏の酷暑も、一段と寒いこの冬も地球の温暖化の影響があると聞きます。地球が大きな生命体だとすると、僕らはそれを構成する細胞。

中には、良い細胞もあれば、残念ながらガン細胞のように周りに害を与えるものもあるでしょう。

「人に奉仕するのは、この地球に住まわせてもらうための家賃だ。」とは、黒人女性として初めてアメリカの大統領選挙に挑んだシャーリー・チザムの言葉です。

なるほど、人（社会）に奉仕して地球上に笑顔が増えるのであれば、家主の地球も喜ぶのかもしれませんが。

「奉仕」とまではおこがましいですが、僕も周りの「当たり前」に感謝して、「はたらく細胞」のように僕もまた「当たり前」に働くことで、ほんの僅かでも人（社会）の為になれればと思います。

還暦の「還」は、社会に還元する歳になったということですからね。(^^^)

でもまずは、お酒を控えて食べ過ぎに注意して、元気なシニアを目指さなくちゃ。

インフルエンザウィルスも早く「バイバイキーン！」となりますように。∠(^◇^)



働く細胞にとっては
ブラックな
職場やね

